

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391200165		
法人名	株式会社ケア21		
事業所名	グループホームたのしい家鶴里 ユニット1		
所在地	愛知県名古屋市中江二丁目9番17号		
自己評価作成日	令和7年9月7日	評価結果市町村受理日	令和8年4月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2391200165-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階		
訪問調査日	令和7年10月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者、家族との絆を大切に、入居後も関係性が途切れることがないように、お花見や、鰻や蟹の外食レク等、四季を感じるイベントや、餃子パーティー等、関りをもてるイベントを企画して、利用者、家族、そして事業所の関係性を向上できるように努めている。
また、地域に向けて音楽療法や納涼祭等を企画し、地域交流を図る他、今後想定される買物難民の問題に対して、事業所に移動スーパーを誘致している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

白とブラウンを基調とした3階建ての事業所はマンションを思わせる外観で、開設11年を迎えている。1階は小規模多機能事業所、2階、3階がグループホームとなっている。法人の理念を基本として、毎年職員と検討して事業所独自のビジョンを掲げ、笑顔あふれる我が家を目指して入居者が心地よく安心して過ごせるように職員が一丸となってケアに繋げるように努めている。周りは閑静な住宅街で近くには公園、小学校や中学校、コンビニなどがあり、日々の散歩で町の賑わいや季節を感じるようになっている。同事業所の小規模多機能で定期的に行われる「体操教室」や「音楽療法」への参加、事業所主催の夏祭りやさまざまなボランティア行事、移動販売車の利用など地域の方々も誘い入居者と共に楽しむなど地域に溶け込んだ環境や催しを行い、地域の方や家族と交流できる機会として継続している。日々の手作りの食事の他に、お寿司のテイクアウトや鍋など季節の食事を楽しめる工夫をしたり、お花見や餃子パーティーには家族と一緒に作ったり、鰻や懐石料理などを食べに出掛けるなど「入居者が今楽しめる、今できる食べる楽しみ」を大切に支援に努めている。穏やかな日差しが差し込む居間では、ソファに腰掛けのんびりとテレビを観たり談笑する入居者の穏やかな姿が見受けられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

己自部外	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念をつくり、利用者が安心して過ごせる事業所を目指している。また、生活向上や認知症緩和、地域交流に関するビジョンをつくり、自分らしく楽しく生活できるよう支援に努めている。	法人の理念の9項目を基本とした事業所独自の理念をフロアに掲げている。入居者や家族との絆を大切にしたいビジョンを毎年職員と話し合い、笑顔あふれる我が家を目指し、入居者が心地よく安心して過ごせるように職員会議やミーティング等で確認し、各自の行動の指針として日々のケアを振り返りながら共有と実践に努めている。技能実習生には翻訳アプリを利用しながら説明をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	温暖化の影響もあり、日常的な交流には至っていないが、盆踊り等地域の行事に参加する他、事業所でのイベントに地域住民を招待し交流を図っている。	地域の公民会に加入し回覧板や運営推進会議、地域包括の職員などから情報を得ている。地域の防災訓練や盆踊りに参加している。事業所主催の納涼祭は小規模と合同で開催し、家族や地域住民を招き交流の場としている。週1回の移動販売車の場所の提供や、事業所で開催するカフェや音楽療法は地域の方や家族と交流できる機会として大切に維持している。こども110当番や地域のコミュニティとしての役割を担っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談を受けた際には、当事業所の紹介の他、他の介護サービスや受けられる制度の説明や提案を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所での取り組み状況をイベント時の写真と共に報告している。また、意見の場を設け、いただいた意見を運営に活かしている。	入居者や家族、公民会長、南区北部いきいき支援センター等の参加を得て併設の小規模多機能事業所と合同で、身体拘束適正化委員会も併せて実施している。会議は事業所の運営状況や入居者の生活の様子、行事報告に加え課題に対する積極的な意見交換の場とし、参加者からの有意義な情報を得られる会議となっている。課題や要望等は記録して職員会議などで協議しサービスの向上に活かしている。議事録は参加者や家族に届けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、地域包括支援センターの職員に参加いただき、事業所の状況を伝えており、協力関係を築いている。	認定申請など必要な業務には市の窓口に出向き情報交換をしたり、運営上不明な点は電話やメールなどで確認し、助言や指導を得ている。南区北部いきいき支援センター主催の「2025.みなみシニアクイズラリー」に協力したり、図書館との共同企画には、「認知症とともに自分らしく暮らす利用者」としてパネル展示をしている。今後、文化祭の参加も検討している。市の主催する研修に職員が参加できるよう体制を整えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	建物の構造上、自動ドアの自動ロックはあるが、身体拘束に関して研修や身体拘束適正化委員会を通じながら、身体拘束をしない支援に努めている。	2か月に1回身体拘束適正化委員会を開催し、ケアの中で気になる事をテーマにしたり、身体拘束や虐待防止について検討している。定期的に身体拘束や人権及び虐待、メンタルヘルス等の研修を行い、職員は年3回「虐待の芽チェックリスト」により自己チェックし、課題の把握に努め改善に取り組んでいる。スピーチロックや不適切な対応を含め拘束感のない生活や職員相互で注意し合える環境を整えている。問題が発生した場合はその都度、検討会を開催している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修を実施している他、身体拘束適正化委員会内では虐待防止に関する話し合いの場を設けている。		

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は、権利擁護に関する研修を実施し、理解を深めており、実際に権利擁護を活用されている。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、説明後不明な点がないか尋ねる機会を設け、家族が理解し、納得いただけるように努めている。		
10	(6) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議では、意見交換の場を設け、いただいた意見を事業所運営に活かす取り組みを行っている。	入居者からは日々の関わりの中から思いや要望を聴き、記録して職員間で共有しケアにつなげている。家族からは面会時や運営推進会議、行事参加の折に意見や要望を聞き、ケアや運営に反映させている。毎月入居者の日頃の様子や入居者一人ひとりが活躍している様子をブログで配信し、パソコンやスマホの環境の整っている家族には離れていても日々の暮らしが確認できるよう取り組んでいる。意見箱を設置し意見を述べやすい環境を整えている。	様々な行事に家族が参加しやすいように配慮し、その様子をブログで配信するなど画期的な取り組みが行われているが、パソコンやスマホなどの環境の整っていない家族には、入居者の日頃の様子が伝わりにくくなっている。環境の整っていない家族にも紙面などで届けられるような工夫が望まれる。
11	(7) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は年に1度従業員満足度調査を実施する他、業務改善提案の機会を設け、運営に反映させ、管理者は月に1度のスタッフ会議から意見を吸いあげ、運営に活かしている。	日常の業務の中や引継ぎ時に意見や提案、要望を聞き、毎月のスタッフ会議やフロアミーティング等で話し合い検討して、運営に反映させている。年1回、職員に満足度や意向等の調査を実施し向上心を持って働けるよう配慮したり、人事考課による自己評価に基づいて管理者と話し合う機会を設け、業務や職場環境の整備に努めている。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1度、誰伸び制度という人事考課を実施し、絶対評価にて行う他、チャレンジキャリア制度を設け資格や介護技術、知識に応じて評価し、やりがいに繋げている。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では年間の研修計画に基づいて、研修を全職員に実施している。また、キャリア支援制度を設け、働きながら資格取得にてキャリアアップが図れる体制を築いている。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年間研修計画以外に、管理者を中心として同業者との勉強会を実施し、サービスの質の向上を図っている。		

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面談時に本人より、今困っていること等を伺い、入居後に少しでも不安がなく生活できるように努めている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に家族等から今までの支援に対して傾聴し、時には労いの言葉をかけながら、本人の状況を伺い、関係づくりに努めている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の困っていることに対して、必要に応じて、福祉用具や訪問マッサージ等のサービス利用を入居時から開始できるように努めている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭での生活の延長線として捉え、日々の家事等を利用者と職員が協力しながら行い、共に助け合う関係性を築いている。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所でのイベントに家族にも参加いただくことで、利用者と家族との絆を強め、事業所との関係性を築いている。		
20	(8) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所に赴くことは難しくなっているが、面会は積極的に受け入れ、馴染みの方に来訪いただき、関係が途切れない支援を行っている。	家族との外出や外食など今までの関係が途切れないような支援に努めている。また、音楽療法やカフェには家族や地域の方にも声掛けて、友人と再会を喜んだり、週1回の移動販売での買い物、食事の下処理や盛り付けなどの家事仕事、植物への水やり、ハーモニカや郡上踊りなど趣味の継続、年賀状などを通して今まで大切にしてきた人や物事が続けられるような支援に努めている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性に配慮しながら、テーブルを分けてフロアで生活していただき、レクリエーション等では、孤立しないよう皆が関わり合えるように対応している。		

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後についても、主に家族からの相談があった際には、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を伺い、介護計画に反映し支援に努めている他、本人の意思決定が困難な場合は、本人の立場に立っての支援内容を検討・実施している。	入居者の気持ちに寄り添い、些細な変化を見逃すことがないよう心がけたり、日常のさりげない会話や表情などから本人の思いや希望を聴くようにしている。得た情報や家族からの情報を基にカンファレンス等で話し合い、支援内容の検討を行っている。思いの表出の少ない方は、身振りやうなづき、表情から把握したり家族から話を聞いたりして本人本位に検討している。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回面談時には伺えなかった情報を日常のコミュニケーションの中から取得し、生活歴等の把握に努めている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の性格や一日の過ごし方、心身状態を把握し、時間によっては居室で休む時間を設ける他、有する力に応じて、過度な支援にならないように対応している。		
26	(10) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	主にスタッフ会議内で課題やケアのあり方について話し合いを行っている。参加が難しい家族や関係者については電話でのヒアリングを行い、介護計画に反映している。	日々の暮らしの中で入居者の思いや身体状況の変化を記録に残し、大事な事や周知すべきことは申し送りやフォロー会議で共有している。毎月のスタッフ会議では計画作成担当者を中心に管理者や職員を交え家族の意見や意向も踏まえながら、日々のケアの実践の結果や課題について話し合っている。その結果を基に3か月ごとにモニタリングを行い、必要に応じて医師や看護師の意見も反映させながら6か月ごとに現状に即した介護計画の作成をしている。状態に変化があれば随時見直しを行っている。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援の中での気づき等に関しては、管理日誌に記載した上での申し送りや、別途申し送りノートにて職員間で共有・実践し、介護計画の見直しを行っている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて、既存のサービス以外にも福祉用具や訪問マッサージの利用等を行い、柔軟な支援に努めている。		

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人が安心して豊かな生活を送るためには、家族との関わりが大切であると考えており、面会の推奨や家族参加型のイベントを企画・実施している。		
30	(11) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主に往診にて、適切な医療を受けられるように対応しているが、希望に応じて、提携する往診医以外でも、今までのかかりつけ医の往診が受けられるように対応している。	入居時に今までのかかりつけ医の継続か提携医の利用かの希望を聞いている。月2回、提携医による内科の往診、月2回歯科医が訪問し口腔ケアや治療などが受けられる。希望するかかりつけの内科医の往診も受け入れている。訪問看護師により週1回入居者の健康管理と必要に応じて医師と連携し受診の対応をしている。家族には毎月診療レポートを送付している。健康状態に変化があった場合は、24時間体制により提携医や看護師、協力医療機関による、速やかで適切な医療が受けられる。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携時に訪問される看護職に日常の変化を伝え、看護職が医師と連携し、必要に応じて処置や、臨時的な往診に繋げている。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病院関係者と連絡をとり、早期に退院できるように調整し、退院後に必要となる支援に対しての準備を行っている。		
33	(12) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期に関する方針の説明を行った上で、重篤化した際には、本人・家族・医師等の関係者と今後の方針について話し合いを行っている。	看取りの実績があり希望があれば受け入れもしている。入居時に事業所として、重度化した場合や終末期についての説明と指針を明らかにして家族の意向を確認している。重度化する可能性がある場合や状況が変化した場合はその都度入居者や家族に意向を再確認し、早い段階から医師や看護師その他関係者と話し合い計画の見直しやチームで看取る体制を整え、入居者にとって最善の援助ができるよう努めている。職員は、法人が行う終末期を含めた医療や介護、メンタルケアなどの勉強会や研修に参加している。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修にて急変時や事故発生時の対応方法について学ぶ機会を持つほか、緊急時のマニュアルに基づいて対応している。		
35	(13) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各災害に応じて火災での外への避難訓練や、水害時の上階避難を実施し、夜間帯については職員が新しく夜勤に勤務する際には実施できるように計画している。また地域の防災訓練へ参加している。	年2回、火災や地震の他に、様々な災害を想定した訓練や水害による垂直避難訓練も取り入れたり、昼間帯や夜間帯の職員体制による避難誘導や初期消火訓練も実施している。職員にはAEDの使用方法を周知し、緊急時に備えている。また、BCP計画を策定し非常時に備えている。備蓄品は水や食料を3日分、毛布や簡易トイレ、カセットコンロ、ラジオなどを準備している。非常持ち出し袋も備えている。毎年、地域の防災訓練にも参加して地域との協力体制を築いている。	

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	訪室時のノックや、介助時にカーテンを閉める等、プライバシーに配慮した声掛け・対応を行っている。	入居者一人ひとりのこれまでの生き方を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に心掛け、「人生の先輩」としての気持ちを持って接するようにしている。日常のケアにおいても気づきを大切に職員会議などで話し合い支援に努めている。呼び名は「さん」付けに統一し、接し方や言葉かけなどの接遇研修や虐待防止等の研修に参加するなどして質の高い支援の実施に努めている。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	特に自己決定が難しい場合、食事の際には、どれから食べられるかを伺い、自己決定に繋がる声掛けを行っている。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	下肢筋力を防止するためにも基本的にはフロアで過ごしていただくようにしているが、今までの生活リズムや心身の状態に配慮し、居室で休まったり過ごされる時間を設けている。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後の着替え等、衣服を選択いただいている。また、イベントにてネイルやハンドマッサージを実施した。		
40	(15) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事をとるようにしている他、主に刻み食や、ミキサー食の場合には、メニューの説明等、食欲がわくような声掛けを行っている。	食材と献立は業者に委託しているが、入居者の希望や要望を業者に伝え献立に反映させている。各ユニットで入居者の嚥下の状態に応じて調理して提供している。また、菜園で育てられた野菜は食卓に彩りを添えている。入居者は保有能力に合わせ盛り付けや後片付けなど職員と共に行っている。お寿司のテイクアウトや季節の食事を楽しめる工夫をしたり、お花見や餃子パーティには家族と一緒に作ったり軽食を食べたり、鰻や懐石料理などを食べに出掛けるなど食べる楽しみを大切に支援に努めている。また、納涼祭には家族と地域の方も参加しアルコールの提供するなどして楽しんでいる。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は管理栄養士の献立のもとで提供し栄養バランスには配慮しており、一度の水分摂取が少ない方については水分量を確保できるように、適宜の声掛けや水分を分けて提供し対応している。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施し、口腔状態に応じて歯ブラシの他舌ブラシやスポンジブラシ等を一人ひとりに合わせて対応している。		

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンの把握に努めて適宜トイレ誘導を行っている。また夜間帯についても声掛けし、排泄の失敗が少なくなるように努めている。	個々の排泄パターンや排せつ前の行動の変化を把握しその人に合った声かけやタイミングに合わせて誘導するようにしている。できるだけ「トイレでの排泄」に向けた自立支援に努め、夜間でも尿意を感じ自分でトイレに行くことを大切に、丁寧な見守りと誘導を行っている。便秘予防では、食事内容の工夫や体を動かす機会も設け自然排便に取り組んでいる。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	蠕動運動を促すためにも歩行時には少しでも歩く距離が長くなるように対応する他、主に乳製品を日頃から摂取いただけるようにしている。		
45	(17) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	事業所としては基本午前に入浴を実施しているが、本人の拒否があった際には、時間や日に変えて対応している。また、季節に応じて菖蒲湯やゆず湯を提供している。	入浴は一人ひとりの体調を考慮しながら週2~3回を基本として午前中の対応としているが、希望があれば日にちや時間を変更するなど、できる限り希望に添うよう対応している。湯は毎回取替え、清潔を保っている。冬季はヒートショックに配慮し脱衣室や浴室の温度差がないよう気を配っている。季節を感じるゆず湯やしょうぶ湯も取り入れている。入浴を拒む方には、声かけを工夫したりタイミングを見計らい、気分転換を図って気持ちよく入浴できるよう支援をしている。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々変化する利用者の体調への配慮と廃用にも注意した上で、日中も居室で休む時間をつくり支援している。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時に薬の内容に変更があった際には計画作成担当者より職員へ連絡し、日々の服薬支援を行い、症状に変化が見られた際には往診医に報告するように努めている。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーション時には楽しみごとに配慮し、歌をうたう時間を設けている。また、洗濯物畳み等家事に協力いただき、生活歴や本人の力を活かした支援を行っている。		
49	(18) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	土用の丑の時期には鰻、冬には蟹料理を、家族にも参加・協力をいただき、外食を楽しむ機会を設けている。	天気の良い日には近隣の公園の散歩に出掛け四季の移り変わりを感じている。また、菜園やプランターで野菜や花を育て、水やりや収穫、草取りなど外気に触れる支援や家族の協力を得ながら外出できる機会が設けられるよう努めている。毎週定期的に来訪する移動販売を利用してパンや菓子などを買ったり、地域の知り合いと会うなど戸外に出る機会としている。今年は家族と一緒に花見をしながら皆で食事を楽しめる機会が持てた。	

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は預かり金として事業所にて管理しており、事前に家族の了承を得た上で、本人の要望に応じて使えるように対応している。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやりとりについて要望はみられないが、毎年家族へ年賀状を送っている。		
52 (19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居住空間の空調管理に努める他、光等の刺激がBPSDに繋がったこともあり、過度の刺激にならないようにランプ等を隠す工夫を行っている。また季節に応じて掲示物を変更し、事業所内でも季節を感じられるように配慮している。	2階と3階の共用空間は広く、開放感があり、食堂と居間はワンフロアの共有スペースとなっている。大きな窓からは自然光が差し、見晴らしも良く、季節の移り変わりが感じられる。居間には職員と共に作成した季節に応じた貼り絵の作品など華美にならないように配慮して壁面に飾っている。感染症対策として空気清浄機を備え空調や照明、臭気などにも配慮した居心地のよい共用空間としている。入居者は気の合う仲間と談笑したり、ソファでゆったり寛いだり、テレビを観るなどしながらのんびり過ごしている。入居者は職員と一緒に掃除をして清潔感のある環境を整えている。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでは、テーブル席の他、ソファを設置し、居室以外でも一人で過ごせる空間や、気の合った利用者同士で過ごせる空間をつくっている。		
54 (20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真等利用者本人の慣れ親しんだものをお持ちいただいている他、状態に応じて家族と相談しながら安心・安全に過ごせるようにレイアウトを変更している。	居室には、エアコンやベット、大きめのクローゼットが備え付けられ、整理整頓しやすく安全に過ごせるよう配慮されている。自宅で使い慣れた家具や机、椅子などを持ち込み、家族の写真や愛着のある小物や手作り作品などを飾って居心地のよい環境となるよう工夫をしている。入居者の状態に応じてベットなどの配置を工夫している。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺やトイレ内には介助バーを設置している他、自立度に応じて使用できる3つの異なる洗面所を設けている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391200165		
法人名	株式会社ケア21		
事業所名	グループホームたのしい家鶴里 ユニット2		
所在地	愛知県名古屋市中江二丁目9番17号		
自己評価作成日	令和7年9月7日	評価結果市町村受理日	令和8年4月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2391200165-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階		
訪問調査日	令和7年10月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者、家族との絆を大切に、入居後も関係性が途切れることがないように、お花見や、鰻や蟹の外食レク等、四季を感じるイベントや、餃子パーティー等、関りをもてるイベントを企画して、利用者、家族、そして事業所の関係性を向上できるように努めている。
また、地域に向けて音楽療法や納涼祭等を企画し、地域交流を図る他、今後想定される買物難民の問題に対して、事業所に移動スーパーを誘致している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

白とブラウンを基調とした3階建ての事業所はマンションを思わせる外観で、開設11年を迎えている。1階は小規模多機能事業所、2階、3階がグループホームとなっている。法人の理念を基本として、毎年職員と検討して事業所独自のビジョンを掲げ、笑顔あふれる我が家を目指して入居者が心地よく安心して過ごせるように職員が一丸となってケアに繋げるように努めている。周りは閑静な住宅街で近くには公園、小学校や中学校、コンビニなどがあり、日々の散歩で町の賑わいや季節を感じるようになっている。同事業所の小規模多機能で定期的に行われる「体操教室」や「音楽療法」への参加、事業所主催の夏祭りやさまざまなボランティア行事、移動販売車の利用など地域の方々も誘い入居者と共に楽しむなど地域に溶け込んだ環境や催しを行い、地域の方や家族と交流できる機会として継続している。日々の手作りの食事の他に、お寿司のテイクアウトや鍋など季節の食事を楽しめる工夫をしたり、お花見や餃子パーティーには家族と一緒に作ったり、鰻や懐石料理などを食べに出掛けるなど「入居者が今楽しめる、今できる食べる楽しみ」を大切に支援に努めている。穏やかな日差しが差し込む居間では、ソファに腰掛けのんびりとテレビを観たり談笑する入居者の穏やかな姿が見受けられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念をつくり、利用者が安心して過ごせる事業所を目指している。また、生活向上や認知症緩和、地域交流に関するビジョンをつくり、自分らしく楽しく生活できるよう支援に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	温暖化の影響もあり、日常的な交流には至っていないが、盆踊り等地域の行事に参加する他、事業所でのイベントに地域住民を招待し交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談を受けた際には、当事業所の紹介の他、他の介護サービスや受けられる制度の説明や提案を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所での取り組み状況をイベント時の写真と共に報告している。また、意見の場を設け、いただいた意見を運営に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、地域包括支援センターの職員に参加いただき、事業所の状況を伝えており、協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	建物の構造上、自動ドアの自動ロックはあるが、身体拘束に関して研修や身体拘束適正化委員会を通じながら、身体拘束をしない支援に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修を実施している他、身体拘束適正化委員会内では虐待防止に関する話し合いの場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は、権利擁護に関する研修を実施し、理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、説明後不明な点がないか尋ねる機会を設け、家族が理解し、納得いただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議では、意見交換の場を設け、いただいた意見を事業所運営に活かす取り組みを行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は年に1度従業員満足度調査を実施する他、業務改善提案の機会を設け、運営に反映させ、管理者は月に1度のスタッフ会議から意見を吸いあげ、運営に活かしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1度、誰伸び制度という人事考課を実施し、絶対評価にて行う他、チャレンジキャリア制度を設け資格や介護技術、知識に応じて評価し、やりがいに繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では年間の研修計画に基づいて、研修を全職員に実施している。また、キャリア支援制度を設け、働きながら資格取得にてキャリアアップが図れる体制を築いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年間研修計画以外に、管理者を中心として同業者との勉強会を実施し、サービスの質の向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面談時に本人より、今困っていること等を伺い、入居後に少しでも不安がなく生活できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に家族等から今までの支援に対して傾聴し、時には労いの言葉をかけながら、本人の状況を伺い、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の困っていることに対して、必要に応じて、福祉用具や訪問マッサージ等のサービス利用を入居時から開始できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭での生活の延長線として捉え、日々の家事等を利用者と職員が協力しながら行い、共に助け合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所でのイベントに家族にも参加いただくことで、利用者と家族との絆を強め、事業所との関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みに場所へは家族の協力をえて、外出されている。また、面会は積極的に受け入れ、馴染みの方に来訪いただき、関係が途切れない支援を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性に配慮しながら、テーブルを分けてフロアで生活していただき、レクリエーション等では、孤立しないよう皆が関わり合えるように対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後についても、主に家族からの相談があった際には、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を伺い、介護計画に反映し支援に努めている他、本人の意思決定が困難な場合は、本人の立場に立っての支援内容を検討・実施している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回面談時には伺えなかった情報を日常のコミュニケーションの中から取得し、生活歴等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の性格や一日の過ごし方、心身状態を把握し、時間によっては居室で休む時間を設ける他、有する力に応じて、過度な支援にならないように対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	主にスタッフ会議内で課題やケアのあり方について話し合いを行っている。参加が難しい家族や関係者については電話でのヒアリングを行い、介護計画に反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援の中での気づき等に関しては、管理日誌に記載した上での申し送りや、別途申し送りノートにて職員間で共有・実践し、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて、既存のサービス以外にも福祉用具や訪問マッサージの利用等を行い、柔軟な支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人が安心して豊かな生活を送るためには、家族との関わりが大切であると考えており、面会の推奨や家族参加型のイベントを企画・実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主に往診にて、適切な医療を受けられるように対応しているが、希望に応じて、提携する往診医以外でも、今までのかかりつけ医の往診が受けられるように対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携時に訪問される看護職に日常の変化を伝え、看護職が医師と連携し、必要に応じて処置や、臨時の往診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病院関係者と連絡をとり、早期に退院できるように調整し、退院後に必要となる支援に対しての準備を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期に関する方針の説明を行った上で、重篤化した際には、本人・家族・医師等の関係者と今後の方針について話し合いを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修にて急変時や事故発生時の対応方法について学ぶ機会を持つほか、緊急時のマニュアルに基づいて対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各災害に応じて火災での外への避難訓練や、水害時の上階避難を実施し、夜間帯については職員が新しく夜勤に勤務する際には実施できるように計画している。また地域の防災訓練へ参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	訪室時のノックや、介助時にカーテンを閉める等、プライバシーに配慮した声掛け・対応を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	特に自己決定が難しい場合、食事の際には、どれから食べられるかを伺い、自己決定に繋がる声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	下肢筋力を防止するためにも基本的にはフロアで過ごしていただくようになっているが、今までの生活リズムや心身の状態に配慮し、居室で休まれたり過ごされる時間を設けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後の着替え等、衣服を選択いただいている。また、イベントにてネイルやハンドマッサージを実施した。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事をとるようにしている他、主に刻み食や、ミキサー食の場合には、メニューの説明等、食欲がわくような声掛けを行ない、本人の力で食べれる様に自具や食器を変えて対応している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は管理栄養士の献立のもとで提供し栄養バランスには配慮しており、食事量が少ない方には経口栄養剤で補う等の対応をとっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施し、口腔状態に応じて歯ブラシの他舌ブラシやスポンジブラシ等を一人ひとりに合わせて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンの把握に努めて適宜トイレ誘導を行っている。また夜間帯についても声掛けし、排泄の失敗が少なくなるように努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	蠕動運動を促すためにも歩行時には少しでも歩く距離が長くなるように対応する他、主に乳製品を日頃から摂取いただけるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	事業所としては基本午前に入浴を実施しているが、本人の拒否があった際には、時間や日にちを変更して対応している。また、季節に応じて菖蒲湯やゆず湯を提供している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々変化する利用者の体調への配慮と廃用にも注意した上で、日中も居室で休む時間をつくり支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時に薬の内容に変更があった際には計画作成担当者より職員へ連絡し、日々の服薬支援を行い、症状に変化が見られた際には往診医に報告するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーション以外の時間にも個別に塗り絵等の時間を設けたり、気分転換を図るために散歩に出掛けている。また、御膳拭きやテーブル拭き等役割をもち、やりがい・生きがいに繋がっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気温の高い時間を避けて散歩に出かけたり、土用の丑の時期には鰻、冬には蟹料理を、家族にも参加・協力をいただき、外食を楽しむ機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は預かり金として事業所にて管理しており、事前に家族の了承を得た上で、本人の要望に応じて使えるように対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやりとりについて要望はみられないが、毎年家族へ年賀状を送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居住空間の空調管理に努める他、光等の刺激がBPSDに繋がったこともあり、過度の刺激にならないようにランプ等を隠す工夫を行っている。また季節に応じて掲示物を変更し、事業所内でも季節を感じられるように配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでは、テーブル席の他、ソファを設置し、居室以外でも一人で過ごせる空間や、気の合った利用者同士で過ごせる空間をつくっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真等利用者本人の慣れ親しんだものをお持ちいただいている他、状態に応じて家族と相談しながら安心・安全に過ごせるようにレイアウトを変更している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺やトイレ内には介助バーを設置している他、自立度に応じて使用できる3つの異なる洗面所を設けている。また、見当識に配慮してトイレ前には分かりやすいようにポップを掲示している。		